２０１７年９月発行　　第８８号

エコネット町田　通信

ECONET Machida　Newsletter

「木曽境川小学校」4年生の境川フィールドワークの報告

６月３０日(火)木曽境川小学校の４年生９６名（３クラス）に対し総合的な学習として、「境川を通して環境について考えよう！」というテーマで野外学習を行いました。
木曽境川小学校からは初めての受け入れでした。

高ヶ坂小学校ボランティアコーデネーター（VC）原田さんを通じて、木曽境川小学校のVC植野さんから打診がありました。

小中学生への環境学習支援はエコネット町田としても注力していると説明し、学校側に進め方などの概要を説明し、現地を案内してもらいました。
対象児童は４年生とわかり、今までは対象を５年生のプログラムとして対応していましたので、年少で９０名超でしたので、事故が起きないような配慮するべく担任先生と打ち合わせました。

親水公園の現場は川幅が広く深いところもあったので、活動エリアを限定。
当日の早朝は小雨、昼からは晴れるとの予報もあり、学校側と相談し実施を決定しました。当日は、１２時１０分にクラスごとに校庭に集合。本日のフィールドワークの進め方や、注意事項などを説明、エコネット町田の担当者を紹介し、みんなで親水公園に出発しました。昼すぎには青空となり絶好の天気になっていました。

１３時半頃からクラスごとに分かれ、５人のグループで水質調査を行いました。
透透視度計による見た目の川の水のきれいさを体験。水道水との比較も行い、境川の透明さを実感してもらいました。

次に、ＣＯＤのパックテストによる科学的な水質検査もしました。採取した水がピンク色に変わり、境川は想像よりきれいな水であることが分かり、児童達は驚いている様子が印象的でした。川はゴミも少なかったので、清掃は早めに終え、魚とりなどの生物調べに入りました。児童達は嬉々として魚などを追いかけていました。最後はカワセミの話や、クラスごとに採取した魚などの説明もしました。

後日、クラス毎に児童全員からの礼状が届き、この日の野外学習は好印象だったことがうかがわれ、境川フィールドワークはいい思い出になったようです。　　（瀬川記）

「徒然草」ゆかりの宿河原用水

２０１７年８月度　Ｔ＆Ｄより（トーカー　山口拓郎）

友人たちと古典講読を楽しんでいる。最近、徒然草に「宿河原といふ所にて」という章段があることを知った。調べてみるとまぎれもなく南武線沿線の宿河原のことであった。こんなに身近に徒然草ゆかりの地があることを知って驚いた。調べてみることにした。

１，　徒然草について

徒然草は枕草子や方丈記とともに日本三随筆の一つに数えられている。全編二百四十段の中身は吉田兼好の広範な人生体験から得た、人生論、処世術、趣味論、有職故実にわたり実に多彩である。各段は長短さまざまで、文体も優雅な和文体から、格調高い漢文体と自在である。人生有為の書として広く人々に親しまれてきた。

２，　吉田兼好の生涯

著者吉田兼好は弘安６（１２８３）年に京都に生まれる。時代は鎌倉初期弘安の役の興奮の未だ覚めやらぬ頃である。神官として有名な卜部氏の家系の出自である。成人して堀川家に仕える。歌人として次第に頭角を現し、当時隆盛を誇つた二条為世門の四天王の一人に数えられる。ちなみに「続千載和歌集」に１首入集されている。

３０歳前後で出家したと考えられる。徒然草の成立時期は、４８歳から４９歳にかけてと推定されている。文和元（１３５２）年、京都没する。享年７０歳であった。

関東には３度程下向したとされている。鎌倉の歌人、知識人との交流が伺える。特に５１歳の頃、称名寺の金沢文庫に足繁く通つたといわれている。宿河原の段はその時期に記したものであろうか。

３，第百十五段　宿河原といふ所にて

宿河原が記述されているのは、徒然草の第百十五段である。全文を現代文として通釈してみる。文中に「ぼろぼろ」とあるのは非僧非俗の無頼乞食の徒で、徒党を組み山野を放浪したと言われている。

「宿河原という所にある道場で、ぼろぼろ達が集まって、九品の念仏を称えていた時に、外から道場に入ってきたぼろぼろが『もし、この中にいろをし房というぼろがいらっしゃいますか』と尋ねたので、その中から一人のぼろが『いろをしは、ここにおります。そうおっしゃるのはどなたか』と答えると『しら梵字と申す者です。私の師匠の何某と申した人が、東国でいろをしと申すぼろに殺されたと承ったので、その人にお会いして、恨みを晴らしたと思ってお尋ね申すのです』と言う。それを聞いたいろをしは『よく尋ねてこられました。確かにそう言うことがございました。しかしここでお相手申し上げたらならば、道場を汚しましょう。前の河原へ参り立ち会いましょう。ここにいらっしゃる方々へのお願いですが、どちらにも味方しないで下さい。仏道修行のさまたげとなってはいけませんので』と言って、二人は河原に出て思う存分に果たし合い、刺し違えて一緒に死んでしまったそうだ。ぼろぼろと言うものは、世を捨てているように見えて我執が強く仏道に専念するように見えて、闘争を専らとしている。勝手気ままで恥知らずのありさ

まであるけれども、死を軽く思って、生に少しも執着しないところが潔く思われるので、ある人が語ったとおりを書き記しておくことにする。」緊迫した二人の問答、そして決闘の簡潔な記述、流石に兼好らしい名文である。その舞台が近在の多摩川の河原であったことに興味を覚えずにはいられない。

４，宿河原用水を訪ねる

徒然草に記述された宿河原とは当時の武蔵国橘樹郡稲田村宿河原村である。宿河原の地名は多摩川の河原で市がたったことに由来するという。多摩川の筏流しが盛んだつた頃には筏師の定宿があったとそうだ。今は川崎市多摩区宿河原である。現在も閑静な住宅地帯の間を宿河原用水が流れている。宿河原用水は二ヶ領用水の支流である。

二ヶ領用水は多摩川の水を引き川崎市多摩区から幸区に及ぶ、全長３２ｋｍの灌漑用水である。稲毛領と川崎領の二つの領にまたがるところから二ヶ領用水と呼ばれた。慶長２（１５９７）年、徳川家康の命により、用水奉行・小泉次大夫が着工し１４年の歳月をかけて完成したと言う。江戸近郊の治水と新田開発が、家康の権力基盤を支える重要な課題だった。二千町歩にわたる美田が潤わされていたが、次第に末端の水不足が深刻になってきた。寛永６（１６２９）年に水不足を補うために追加された用水が宿河原用水である。宿河原の多摩川に取入口が開削され３ｋｍにわたり水田を潤し久地で二ヶ領用水の本流に合流する。

５，徒然草碑を訪ねる

宿河原用水に徒然草の碑が建っていることを知った。６月某日、古典講読の仲間と探訪することにした。

当日は生憎朝から梅雨のはしりをおもわす曇天で雨が懸念された。午前１０時、登戸駅に集合する。宿河原は南武線で１駅である。電車を降りると雨が降り始めていた。駅前の商店街を抜けると宿河原用水にかかる木橋が見えた。直進すると宿河原村の鎮守・宿河原八幡だ。橋の袂に「宿河原堤の桜」と刻んだ石碑が建っている。水路に添つてに見事な桜が並木をなしている。桜の季節には見物客で混雑するそうだ。見事な親水工事がなされており水面に近い遊歩道を辿ることができる。多摩川から引かれているので水量は豊かでしかも澄んでいる。川底の水草が青々と美しい。やがて緑化センターの標識が見えてきた。広い園内には様々な花が雨にぬれ冴えた色を見せていた。程なく前方に用水を跨ぐように巨大な東名高速道路の横腹が見えてきた。その手前に用水にそって徒然草の碑がひっそり建っていた。碑建立に関与された委員の方がたまたまおいでになり建立の経緯を説明してくださった。近所にお住まいで同好の士と活躍されているそうだ。碑には徒然草の第百十五段の原文が刻んであった。数百年の時空を超え、眼前に荒涼とした河原が拡がり二人のぼろぼろが真剣に渡り合う息ずかいがよみがえってくるのを感じていた。

中高校生と川の清掃活動に　　汗をかく

（夏休み体験ボランティア受入報告）

毎年夏になると、夏休体験ボランティア応募された中高大学生の若い皆さんと一緒に川の清掃活動が定例行事となっています。町田ボランティアセンターが窓口となりボランテアの実体験をしてもらうイベント企画です。

受け入れ先は、保育園・高齢者施設・学童保育・障害者施設など室内施設が大半で、野外での受け入れ先は少ないですので、環境問題に関心のある元気な学生が応募してきます。

今年の受け入れ日と場所は、定例活動日の８月３日（木）恩田川、８月１３日（日）真光寺川としました。
合計で１１名（中学生６名、高校生５名）の参加応募があり、恩田川に９名、真光寺川には２名でした。

（恩田川の活動）

当日のメンバーは町田第一中学校から５名。高校生は市内の高校在学生２名、市外の高校在学生２名で。合計９名でした。１０時に集合し、エコネット町田のボランティア活動概要や作業進め方を説明。坂下橋を中心に上流から下流に５つの作業エリアごとに２名チームで行うことし、それぞれ会員がついてゴミ拾いを開始しました。

恩田川を管理している東京都の建設事務所には本日の作業に備え、事前に川岸の下草刈りをお願いしていましたので、清掃はなんとかスムースにいったようです。いろいろなゴミはあるのに皆さん驚き、清掃ボランティアの大変さを実感していました。

当日は大変暑い日でしたので、活動時間は１時間半で終え、冷たいお茶を飲みながら恩田川の今昔の話もしました。窓口となった町田ボランティアセンターから２名のスタッフが来られ活動状況を熱心に見学し、学生さんにも声をがけをしていました。

（真光寺川の活動）

鶴川にお住いの高校生と中学生の男子学生が参加。午前１０時から１１時３０分までの暑い中、川底が浅いがゴミの多い矢崎橋と新矢崎橋の下の川の中の清掃を熱心にしていました。おかげで沢山のゴミが回収されました。

（瀬川、山本記）

楽しい夏休みの思い出に！　真光寺川まつり 2017開催

●７月２２日（土）、梅雨明け後の暑い日差しの中、下堰親水で真光寺川まつりが行われました。１０時、山本代表の挨拶でまつりがスタートしました。川辺では魚取り、笹舟レース、水鉄砲遊びで子供たちの歓声が明るく響きました。川岸では小さい子供たちが親の見守る中、プール遊びで大はしゃぎ。少し下流の対岸からは魚釣りが行われました。また階段上の広場では真光寺川に住む魚のミニ水族館やこの川の魚や鳥や植物の写真を展示しました。

●お父さんも子供たちも魚捕りに夢中！

一番人気は魚取り。用意したアミを使って親子で夢中になって楽しんでいました。小さいヨシノボリやエビなどがとれていました。

ミニ水族館では婚姻色が美しいオイカワのオスや４０㎝級の白ナマズなどが注目を集めていました。

１１時から階段下の川で投網の実演が行われました。先生は子供のころ真光寺川で遊んだというご近所の神蔵喜代勝さん。華麗な投網を披露していただきました。

大きなコイを捕えたのですが、残念ながら手元で逃がしてしまいました。

まつりは午後１時まで続きました。気温は 33 度を超えましたが、子供たちは暑さにも負けず時間を惜しむように川遊びに熱中していました。

●まつりを支えてくれた人々

今年もこの川の管理者である東京都の南多摩東部建設事務所に河原と道路の草を刈っていただき、気持ち良い会場となりました。また、魚取りや写真撮影などでご近所の方々の支援もいただきました。有難うございました。

●町田全域から２５０名の市民と子どもたちが参加

今年は１４回目の川まつりになります。川の流域の他に町田市全域から２５０名位の市民と子どもたちが参加してくれました。そして若いお父さんとお母さんに連れてこられた子供たちが汗だくになって川遊びを楽しんでくれました。

●これからも清掃活動を通じて、子供たちが川にふれあって思い出に残るきれいな川になるよう取り組んでいきます。

市民の皆様のご理解と支援をお願い致します。　　（文：黒田　健夫）

今年のエコフェスタは初めて市庁舎で開催！

今年は２６回目となるフェスタです。「**ひとりひとり　心がけよう　エコライフ**」をテーマで１０月１日（日）開催しますのでお越しください。

リサイクル文化センターの全面建て替え工事が始まり、従前この敷地で行っていたエコフェスタ開催が出来ないということになりました。開催場所をどこにするのか、芹が谷公園、シバヒロなども検討しましたが、市庁舎で開催することになりました。

市庁舎で行われている「まちカフェ」を昨年１２月の開催日に実行委員有志で見学し、エコエスタも市庁舎での開催がベストと判断し、市側窓口の環境政策課などにも相談して進めました。

全体の構成は演奏などのステージをなくし、人気のあるフリーマケットを１階に集結。２～３階に町田市の活動がわかる３Ｒ推進課など行政のブース、環境活動団体などを紹介するＰＲコーナーなどを配置することにしました。室内なので雨の心配もなく、多くの来場者が足を運ぶことを願っています。　（瀬川記）

行　事　案　内

行　事　名	実　施　場　所	実　施　日			実施時間
		10 月	11 月	12 月	
恩田川清掃	恩田川上流端～旧高瀬橋	05	02	07	10 時
真光寺川清掃	真光寺川全域	08	12	10	9 時 30 分
境川清掃	鹿島橋近辺	--	09	--	10 時
滝の沢源流公園清掃	公園内	22	26	24	10 時
推進連絡会	市民フォーラム４階ボランティア活動室Ｂ	22	26	24	14 時
Ｔ＆Ｄ	同上	22	--	24	15 時頃～

エコネット町田通信　　第８８号　２０１７年９月２４日発行
発行人　瀬川　晋
〒194-0031　町田市南大谷 1327-128　　℡/Fax　042-722-2827
エコネット町田ＨＰ：http://econetmachida.web.fc2.com/